

	1 教育分野の政策課題	2 課題解決に向けた施策の方向性
<p>区 の 補 助 計 画 等 の ま と め</p>	<p>(1) 児童・生徒の基礎的な力の確実な習得に加え、社会の変化が加速化、複雑化するこれからの世代に必要な資質・能力を育むための授業改善が求められている。 (2) いじめや不登校は引き続き大きな問題であり、命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等の育成と、豊かな人間性や社会性、創造性の涵養を目指して、道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等の充実が求められている。 (3) 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指して、食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導の充実が求められている。 (4) 個人の進度や能力、関心に応じた多様な学びの場を保証するために、個人の学習評価や学習到達度を踏まえた、一人ひとりに対応した学習計画や学習内容の設定、多様な集団における協働学習及び指導体制などの実現が求められている。 (5) グローバル化・情報化の進展に対応した情報教育、教科指導や特別支援教育でのICT機器の活用、校務処理の効率化を通じた更なる教育の質の向上を図るための教育の情報化が必要である。 (6) 教員以外の専門スタッフや外部人材・地域資源の活用による「チームとしての学校」の機能強化と、家庭・地域・関係機関が連携・協働する「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている。 (7) 高い専門性と指導力、協働性を備えた教員人材の育成のための研修の充実と、教員が心身ともに健康で、誇りとやりがいをもって職務に従事できるようにするための働き方改革の実現が求められている。 (8) 児童・生徒等の学習・生活の場であり災害時には避難所にもなる学校施設の安全性の確保と教育環境の向上を図るため、学校施設の老朽化への対応と時代に即した学習基盤整備が必要である。 (9) 小規模化の課題を解消し、さらなる区立中学校の魅力づくりに向けて、区立中学校の適正規模・適正配置を推進する必要がある。 (10) 障害のある児童・生徒も障害のない児童・生徒も可能な限り共に学ぶことに配慮しつつ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を更に充実させるインクルーシブ教育システムの構築が求められている。</p>	<p>【5年後】 (1) 新しい時代に必要な資質・能力の育成と、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。 (2) 小集団学習、個別学習などの学習形態を取り入れた多様な学びを実現する。 (3) 教育の情報化推進計画に基づく学校ICT環境の整備、教員のICTを活用した指導力の向上を図る。 (4) 教員以外の多様な専門スタッフの配置・活用による「チーム学校」を推進する。 (5) 学校現場における業務の適正化、勤務時間管理の徹底、ICTの活用による校務の効率化を図る。 (6) 学校施設の長寿命化計画に基づく学校施設の改修・改築、学校統合による適正規模化と教育環境の向上を図る。 (7) 全ての子どもが可能な限り共に学ぶことに配慮しつつ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた、連続性のある多様な学びの場を充実する。 【10年後】 (1) デジタル教材など、ICTを効果的に活用した授業を実践していく。 (2) 一斉一律の授業形態から、個人の進度や能力、関心に応じた学びの場への転換、異年齢・異学年集団での協働学習を拡充していく。 (3) ICTも含めた新たな教育環境に対応できる学校施設など、教育インフラを更に充実していく。 (4) 「チーム学校」に加え、地域人材や社会資源と連携・協働する学校運営体制を構築していく。 (5) 学習指導・生徒指導、学校経営等あらゆる場面でのICTの活用を図り、教員の負担を軽減し、教育の質を向上を図る。 (6) 年少人口の増加とその後の推移を見据えた学校施設を整備していく。 (7) インクルーシブ教育システムの構築を推進していく。</p>



	3 審議会での主な意見
<p>審 議 会 ま と め</p>	<p>○ 小学生・中学生の時期には個々の成長に応じた学習活動がなければ、いじめの問題や引きこもりにつながるのではないかと。 ○ 今後は少子化時代で児童をケアする人手の方が多くなることを考えると、高齢者世代の掘り起こしによる全員参加で課題に対応することにより、乗り切れるのではないかと。 ○ 教科書に二次元バーコードが付与される状況等を考えると、教育分野におけるIT化や情報化は5年後、10年後ではなく緊急の課題ではないかと。 ○ AI時代に、読解力・創造力といった人間にしかできない能力を向上させていく教育が求められるのではないかと。 ○ 英語教育に力を入れることは良いが、日本文化に関する教育も大切だと思ふ。 ○ 「チーム学校」を進めるためには、教員以外の専門スタッフや地域人材を活用した、風通しの良い体制づくりが必要である。 ○ 学校は子どもたちが勉強する場でなくてはならない。多忙な教員を支援するため、専門職も含め外部と連携し、ボランティア派遣などできないかと。 ○ 学校だけで全ての課題に対応していくことは難しいので、PTAと更なる連携をして取り組んでいくことが必要である。 ○ 学校の適正規模化に当たっては、小規模校の課題とともに大規模校にも課題があることを認識して進めてほしい。 ○ 「地域と密着した学校」の視点が欠けないようにしてほしい。</p>

4 教育分野の概ね20年後の区の将来像やあるべき姿【キーワード】

- 教育の情報化の推進による教育の質の向上
- 子どもの人権が尊重される教育環境づくりに向けた施策の推進
- 一人ひとりの児童・生徒に応じた適切な教育の推進

- 「チーム学校」に加え、地域人材や社会資源と連携・協働する学校運営体制の構築
- 将来需要に対応した安全・安心で快適な学校施設の整備
- 適正な学校規模の下での充実した教育活動の展開
- インクルーシブ教育システムの構築